



神奈川県立図書館 展示パネル (Web 版)

# 神奈川の東海道と宿場

県立図書館の展示パネル (Web 版) をご紹介します。

— 県立図書館において、以下の期間、展示したものです。 —

## 展示期間

平成 25 年 8 月 9 日 (金) ～11 月 13 日 (水)

※月曜日、毎月第 2 木曜日は休館 (祝日の場合は開館)

## 会場

県立図書館本館 1F 展示コーナー

お問い合わせ 神奈川県立図書館 地域情報課

電話 : 045-263-5904 F A X : 045-241-0985

## 目 次

- 1.開催にあたって
- 2.東海道の成立と発展
- 3.宿場の成立 1  
～川崎宿・神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿・藤沢宿～
- 4.江戸時代の鎌倉周遊・江の島詣
- 5.宿場の成立 2  
～平塚宿・大磯宿・小田原宿・箱根宿～
- 6.江戸日本橋から京都三条大橋までを結んでいた東海道

# 神奈川の東海道と宿場

## 開催にあたって

東海道は江戸と京都・大坂をむすぶ幕府から最も重視された街道でした。参勤交代・御茶壺道中・お伊勢参りなどで多くの旅人が行き交う五街道中で最も交通量の多い街道であり、道中の宿場も地域の経済・文化の中心として賑わいました。

本展示では、県内の川崎宿から箱根宿までの九つの宿場町と、その周辺の様子を当館所蔵資料から紹介します。

# 東海道の成立と発展

慶長5(1600)年9月、関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康は、翌慶長6年正月には江戸と京を結ぶ東海道の宿駅を設定し、東海道の伝馬継立制度を確立しました。

この時各宿場には「伝馬朱印状」と「御伝馬之定」が下付されましたが、現在これらの資料が残る宿及び下付されたことが記録に残る宿を合わせると40数宿となり、この後、慶長7(1602)年に岡部宿、同9年戸塚宿、袋井宿・石薬師宿が元和2(1616)年、箱根宿が同4年、川崎宿が同9年、そして寛永元(1624)年に庄野宿が設置され、ようやく江戸から京都間に五十三次がそろったのです。なお、東海道は江戸から京都間だけでなく、大津宿から伏見・淀・枚方・守口の4宿を経て大坂にいたるいわゆる京街道を含め、東海道五十七次ともよばれました。

幕府は東海道と平行して、中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中など、いわゆる五街道を整備し、江戸を起点とする交通網の掌握を図りました。

神奈川県内には東海道と甲州道中が通じていました。東海道は県内の海岸沿いを通り、小田原から箱根山中へ入り、駿河国の三島宿へ通じていました。東海道と甲州道中に挟まれた地域には数多くの脇往還が縦横にはしてありました。

この中で東海道は、江戸と京・大坂を結ぶ街道として重視され、参勤交代の大名行列なども大部分がここを通りました。

街道名	行程		宿数
東海道	江戸—京都間	126里6町1間 (約496km)	53宿
	江戸—大坂間	137里4町1間 (約539km)	57宿
中山道	江戸—草津(近江)間	129里10町8間 (約508km)	67宿
甲州道中	江戸—下諏訪間	53里24町余り (約211km)	45宿
日光道中	江戸—日光間	36里11町20間 (約143km)	21宿
奥州道中	宇都宮—白河間	21里18町14間 (約84km)	10宿

## 【参考文献】

『神奈川県史 通史編2 近世(1)』 神奈川県県民部県史編集室 神奈川県 1981年

<請求記号: K21/16-3/2>

『歴史の道 東海道 東海道宿駅設置四〇〇年記念』 豊橋市美術博物館編・発行 2001年

<請求記号: K291/575>